

「この人 92」

梅岡菊子 80歳 愛媛県

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

梅 岡 主人を突然亡くして呆然自失の時、俳句に出会いました。平成二十二年三月のことでした。八木会長の句集を読んで、私が考えていた俳句とは全く違い、本音とユーモアで人間の生きざまが表現されていて面白い俳句だなと思い、滑稽俳句をやってみようと思いました。俳句を詠むことによって精神的なダメージから救われました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

梅 岡 あらゆる束縛から心を解放できることです。これは、お金では買えない価値があります。どんなに財産があっても滑稽がわからない人は情けないと思います。滑稽で誰かを楽しませ、自分も楽しめる素晴らしいものだと思います。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

「この人 92」

梅岡菊子 80歳 愛媛県

梅 岡 人間の本性は滑稽なのです。別の言い方をすれば、愚かさです。嘘をつき切れぬ正直の滑稽など色々ありますね。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

梅 岡 脳の活性化、脳を元気にしてくれます。そして皆さんの俳句を鑑賞できるのも楽しみです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

梅 岡 常識にとらわれず、ものを素直に詠むことです。そして、擬人化すればいい滑稽俳句ができるのではと努力しています。

「この人 92」

梅岡菊子 80歳 愛媛県

【代表句】

牛鬼の首のどこまで秋の空

枝豆のさやに双子と一人つ子

逃げる蛇そのひと筆の草書体

冬の海わしづかみして鳶舞へり

夕風にさらして立つや汗の胸